

# 募集案内

## 理学療法士・作業療法士 研修プログラム 2025



札幌医科大学附属病院



# 新たなる PT・OT の キャリア形成



## ご挨拶



札幌医科大学附属病院  
病院長 渡辺 敦

札幌医科大学附属病院は、「患者さんに信頼、満足、安心していただける安全で質の高い医療を提供するとともに、高度な先端医療の研究・開発に取り組み、人間性豊かな優れた医療人の育成に努め、北海道の地域医療に貢献すること」を理念とする北海道の基幹病院です。

当附属病院では、平成 26 年度から理学療法士と作業療法士のための研修プログラムを提供しています。このプログラムでは、高度なリハビリテーション臨床能力を身につけることを目指しています。総合研修プログラムでは、各種疾患別リハビリテーションの基礎的能力を養うことを目的としています。このプログラムでは、当院独自の治療である神経再生医療におけるリハビリテーション場面を見学する機会を設けています。他方、運動器障害系、内部障害系、中枢神経障害系、高次脳機能障害系の 4 つの専門研修プログラムを有し、各コースに関係診療科との連携と専門性を備えた研修コーディネーターを配置しています。これにより、各専門性に特化した能力を磨くことが可能となっています。

リハビリ分野は現代医療には欠くことができない領域であります。また、急速に発展している分野でもあります。この研修プログラムの基に、是非とも有能で熟練した理学療法士あるいは作業療法士となり、高度医療の担い手となって頂くことを希望しています。札幌医科大附属病院は、皆様の向上をお手伝いし、将来の成功へ導きたいと強く思っています。共に、医療の発展に向けて歩みを進めましょう。



医療の高度専門化の流れは、リハビリテーション医療でも例外ではありません。その中核的役割を担う理学療法学・作業療法学においては、多様な技術革新と急速な専門化及びこれらの応用の拡大が進んできております。

本学ではこれらの現状をいち早く認識し、医師の卒後臨床教育システムも参考に研究成果を基盤にした理学療法そして作業療法の高度臨床実践能力を養う理学療法士・作業療法士研修センターを 2014 年に開設いたしました。特色は、医師の卒後研修組織と同様に病院組織として附属病院全てのリソースを活用した研修を可能としたことであり、医師が進める学術的知見を基盤にした臨床実務と連携して研修ができる体制としたことでもあります。また、研修コーディネーターを配置し、個別の研修療法士の学びに寄り添う環境も整備しています。

開設以来、毎年 5 名程度の研修療法士が学び、これまでに 55 名が研修を終え、道内を中心に地域医療の最前線で活躍するとともに、大学院への進学など科学的マインドをもちながら高度な理学療法そして作業療法の展開に寄与しています。



PT・OT 研修センター  
センター長  
リハビリテーション部 部長  
保健医療学部理学療法第二講座教授

片寄 正樹

## 研修理念

高度化する医療に対応する最先端の理学療法・作業療法を推進するため、基礎的・専門的知識、技術、医療人としての態度などを包括した臨床能力の向上を目指す。



▲研修の様子

## 研修特徴

### 勤務しながら研修

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部において、実際に勤務しながら研修を受けることができ、実践的な内容を学ぶことができます。



### 個別プログラム

多様な臨床経験や希望する研修内容に配慮し、研修目的に応じた研修コーディネーターを配置した個別のプログラムになっています。



### 関係診療科との連携

大学附属病院という先端的医療を担う当院の関係診療科との連携を深めながら研修を実施することで、より専門的な知識を習得することができます。



## 総合研修プログラム

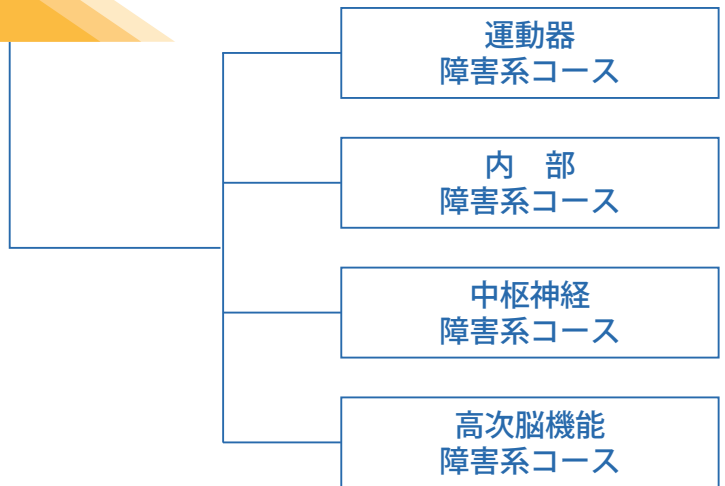
理学療法・作業療法について、総合的に学びます。

新卒者および先端的な理学療法・作業療法の学び直しを希望される方を対象としています。

## 専門研修プログラム

専門性に応じた4つのコースがあります。  
この専門研修プログラムは、研修内容に応じ関係診療科と連携した研修をすすめることができます。

各コースに関係診療科との連携と専門性を備えた研修コーディネーターを配置しています。



## 年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1クール 7月上旬 (症例報告会 1)			2クール 10月中旬 (症例報告会 2)				3クール 1月上旬 (症例報告会 3)				研修終了

\* おおまかな予定

日々臨床を行いながら、年間3症例のケースレポートを作成。1クール毎に症例報告会を行う。  
このレポートをもとに評価を行う。



▲症例報告会の様子

▼修了式



# 総合研修プログラム

**医療の専門化、高度化に対応すべく様々な疾患・病態を幅広く経験し、それぞれに対応した評価およびその結果の解釈、治療・訓練に対する基本的な実践能力を養う。**

本プログラムでは、研修期間を3つのクールに区分し、研修理学療法士は、4つの専門分化した理学療法の診療係の中から、希望に基づき3つの係の指導を受けることができます。研修作業療法士は、作業療法の診療係の指導のもと、各クールで異なる疾患領域の患者を担当することができます。これらを通じて、様々な疾患や病態を幅広く経験し、評価の選択と実施、得られた結果の統合と解釈のほか、多職種連携を含めた理学療法・作業療法の実践に必要な基本的知識・技術を学びます。各クールの終わりには、症例報告会が設定されており、それを経験することにより、症例報告のプレゼンテーションスキルも身につけます。

このプログラムは、主として、新卒の理学療法士・作業療法士のほか、学び直しを希望されている療法士を対象としております。

- 研修期間：原則1年。研修内容によって、半年以上2年までの研修期間とすることができます。
- コーディネーター：柿澤雅史（リハビリテーション部 主査）  
太田久晶（PT・OT研修センター 副センター長/保健医療学部作業療法学第一講座 教授）
- 指導者：リハビリテーション部理学療法士・作業療法士、保健医療学部理学療法学科教員・作業療法学科教員

## 理学療法の診療係が対応する疾患領域

1係(がん・内部障害)	2係(中枢神経障害)	3係(運動器障害)	4係(心大血管)
口腔底がん 上部食道がん S状結腸がん 等	脳血管障害 脳腫瘍 神経・筋疾患 等	変形性関節症 ACL・半月板損傷 肩腱板断裂 腰部脊柱管狭窄症 等	急性心筋梗塞 慢性心不全 心臓血管外科術後 等

## 作業療法の診療係が対応する疾患領域

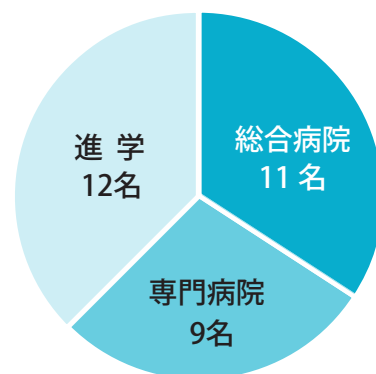
整形外科疾患	脳外科疾患	脳神経内科疾患
脊髄損傷 手指の変形性関節症 手指の腱損傷損傷 等	脳血管障害 外傷性脳損傷 脳腫瘍 等	パーキンソン病 多系統萎縮症 多発性硬化症 等

## ■ 研修療法士の受け入れ状況



## ■ 修了後の進路

2023年度まで計32名(うち道内29名)



## 修了者の声

領域で様々な疾患を担当し、病態や治療内容について理解を深めることができました。また、指導者の先生とのディスカッションを通して、根拠を持った理学療法の考え方を学ぶことができました。症例報告会や日々のカンファレンスでは、経験豊富な先生方から助言をいただき、幅広い視野を持って症例に向き合うことができました。また、自分の考えをわかりやすく表現する能力を身につけることができ、今後につながる貴重な経験をすることができました。

総合研修プログラム修了者  
幅口 亜紀 (PT)

私は、理学療法士として臨床で働く上での土台を築くこと・自信をつけることを目標に研修に参加しました。一年間で3領域を経験したことや症例検討会での発表を通じて、この目標は達成できたと思います。忙しいと感じることもありましたが、熱心で優しい指導者の先生や相談できる同期の存在もあり、充実した研修を送ることができました。また、日々研鑽し続ける先生方の姿を近くで見られたことも、貴重な経験になったと思います。

総合研修プログラム修了者  
中村 茉愛 (PT)

総合研修プログラムでは、運動器疾患、中枢疾患、内部疾患の様々な領域の理学療法について、指導者から毎日詳細にフィードバックをいただき、多領域の経験や知識を深めることができました。また、年3回の症例報告では、伝えることの難しさを実感しましたが、論理的な思考や表現力を鍛える貴重な機会となりました。私は本研修制度を通じて、今後の理学療法に対する考えを大きく成長させていただいたと感じています。

総合研修プログラム修了者  
和泉 海斗 (PT)

総合研修プログラムでは、3領域にわたって様々な症例を経験し、理学療法についての学びを深めることができました。指導者からのフィードバックや、年3回の症例報告を通して自分の考えを整理し表現する能力を磨くことができると感じました。また、医師や他職種とのディスカッションを行う機会も多く大変貴重な臨床経験を積むことができました。

総合研修プログラム修了者  
齋藤 高輝 (PT)

3領域において様々な症例の理学療法を行えたことは非常に貴重な経験となりました。日々の臨床では指導者から丁寧な指導をいただいて知識や技術を身につけることができ、症例報告会では、担当症例の評価から治療までを論理的に考え、わかりやすくプレゼンする能力を養うことができました。さらに医師をはじめとする多職種とのディスカッションの機会もいただいて非常に多くのことを学ぶことができました。

総合研修プログラム修了者  
川原 良太 (PT)

# 専門研修プログラム

## 運動器障害系コース



運動器障害に対する治療チームにおいて自律して活躍できる専門療法士を目指す。

研修の初期段階では、基礎的な運動器障害で認められる病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。さらに整形外科カンファレンスへの参加、手術見学などから、医師との連携や最新の医療について学び、様々な知見を統合した理学療法・作業療法を実践できるよう研鑽します。

- 研修期間：原則1年。研修内容によって、半年以上3年までの研修期間とすることができます。
- コーディネーター：河合 誠（リハビリテーション部 係長）
- 指導者：リハビリテーション部 理学療法士・作業療法士、保健医療学部理学療法学科教員・作業療法学科教員

## 内部障害系コース



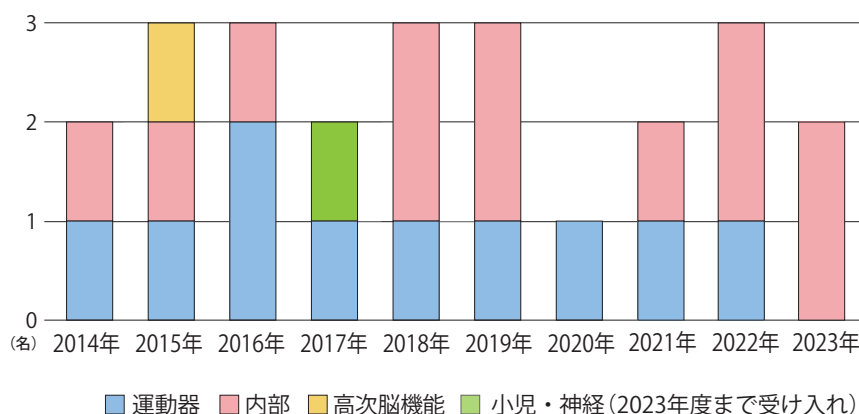
呼吸器理学療法や循環器理学療法に関する専門的な能力を取得。

研修の初期段階では、基礎的な呼吸循環機能障害で認められる症状に対する理解を深め、また、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。

研修の後半では、得られた結果からどのような治療介入が適切であるのかを学びます。呼吸循環機能障害のみならず、必要に応じて身体機能障害も含めた治療介入方法を選択し、治療経過に合わせて治療介入効果の妥当性について検討します。さらに ADL 場面で認められる呼吸循環機能障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。

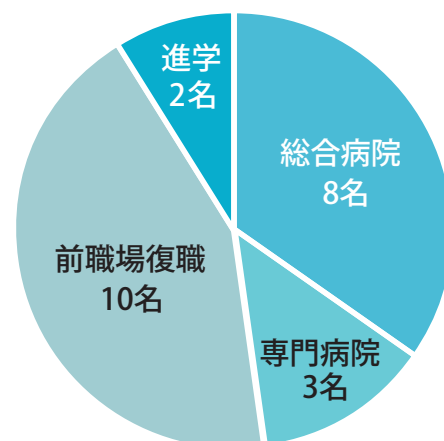
- 研修期間：原則1年。研修内容によって、半年以上3年までの研修期間とすることができます。
- コーディネーター：橋本暁佳（医学部病院管理学 教授/循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座）  
片野俊敏（リハビリテーション部 係長）
- 指導者：リハビリテーション部 理学療法士、保健医療学部理学療法学科教員

### ■ 研修療法士の受け入れ状況



### ■ 修了後の進路

2023年度まで計23名（うち道内19名）





## 中枢神経障害系コース



### 脳神経疾患・脊髄損傷に関する幅広い知識と技術を学び、 中枢神経障害に対する専門的な理学療法および作業療法を学ぶ

研修の初期段階では、神経筋疾患や脊髄損傷を含む中枢神経障害で認められる病態を理解し、その病態像把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、中枢神経疾患に対する適切な治療介入を選択し、実施する能力を養います。

- 研修期間：原則1年。研修内容によって、半年以上3年までの研修期間とすることができます。
- コーディネーター：菅原和広（リハビリテーション部 副部長/保健医療学部理学療法学第一講座 教授）
- 指導者：リハビリテーション部理学療法士・作業療法士、保健医療学部理学療法学科教員・作業療法学科教員

## 高次脳機能障害系コース



### 様々な高次脳機能障害を呈する患者に対応できる専門的な臨床技能の習得を目指します。

研修のはじめには、まず、主要な高次脳機能障害の特徴および責任病巣について学習します。加えて、各種検査バッテリーの実施方法と検査結果の解釈の仕方についても学びます。

さらに、臨床実践を通して、症状に対する掘り下げ検査を実施することの必要性や、動作分析・観察評価から日常生活場面で認められる高次脳機能障害の特徴を把握することの必要性を学びます。また、日常生活場面での治療・訓練方法について工夫することを学び、応用的な評価技術・訓練技術を身につけます。

- 研修期間：原則1年。研修内容によって、半年以上3年までの研修期間とすることができます。
- コーディネーター：太田久晶（PT・OT研修センター 副センター長/保健医療学部作業療法学第一講座 教授）
- 指導者：リハビリテーション部作業療法士、保健医療学部作業療法学科教員

## 修了者の声

本研修では、市中病院では経験できない重症心不全や肺高血圧症など、多くの症例に触れる貴重な機会でした。また、週2回の症例に関するディスカッションや年3回の症例報告会では、症例に対する知識やプレゼンテーション能力を鍛えることができました。心臓リハビリテーションカンファレンスでは、多職種とのディスカッションを通じて、多面的かつ多角的な視点で症例を検討する能力も身につきました。ここで過ごした1年間は、多くのことを学び、刺激的で最高の日々でした。

専門研修プログラム  
内部障害系コース  
修了者 榎原 勇人

大学病院でしか経験できないような重症疾患に対して多くの理学療法経験を積むことができました。毎週行われるチーム内での症例ディスカッションでは、病態解釈や評価結果の解釈、介入内容等、多くの助言を頂く中で自分の臨床スキルの幅が広がり、日々成長を実感できました。症例報告に向けての取り組みでは、根拠を持って考察する能力や、プレゼンテーションスキルを向上させることができ、大変貴重な経験ができた1年だったと感じています。

専門研修プログラム  
内部障害系コース  
修了者 藤崎 弘也



# 2025年度 札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士研修プログラム募集要項



## 1. 募集人数

総合研修プログラム / 専門研修プログラム合わせ 5 名程度。

## 2. 研修期間

2025年4月1日から原則1年間。

- ・総合研修プログラム（研修内容によって半年以上2年まで期間調整可）
- ・専門研修プログラム（研修内容によって半年以上3年まで期間調整可）

## 3. 応募資格

- ① 理学療法士免許または作業療法士免許を持つ者
- ② 第 60 回理学療法士国家試験または第 60 回作業療法士国家試験の受験予定者

## 4. 募集期間

2024年9月2日（月）～10月15日（火）

## 5. 事前連絡先

希望するプログラムのコーディネーターに事前に連絡することをお願いしております。

電話もしくはメールにて希望する研修の実現が可能かどうかご確認ください。

☎札幌医科大学附属病院代表電話番号 011-611-2111

研修プログラム		プログラム コーディネーター	内線	メールアドレス
総合研修プログラム		柿澤 雅史 (研修理学療法士担当)	36870	kakizawa@sapmed.ac.jp
		太田 久晶 (研修作業療法士担当)	28450	hisoh@sapmed.ac.jp
専門研修 プログラム	運動器障害系コース	河合 誠	36870	m-kawai@sapmed.ac.jp
	内部障害系コース	片野 俊敏	52360	s.katano@sapmed.ac.jp
	中枢神経障害系	菅原 和広	28730	kaz.sugawara@sapmed.ac.jp
	高次脳機能障害系コース	太田 久晶	28450	hisoh@sapmed.ac.jp

## 6. 応募書類

下記の必要書類を郵送または持参により提出ください。

### (1) 提出書類

- ① 札幌医科大学附属病院研修理学療法士・作業療法士願書（様式指定）
- ② 履歴書
- ③ 卒業（見込）証明書
- ④ 国家資格免許証の写し
- ⑤ 研修承諾書（既所属先に在籍のまま研修を受ける場合）（様式指定）
- ⑥ 推薦書（総合研修プログラムに応募する新卒者のみ）（様式指定）

※様式が指定されているものについては、下記からダウンロードしてください。

<https://web.sapmed.ac.jp/ptot-tracen/program.html#program1>



### (2) 提出先

〒060-8543

札幌市中央区南1条西16丁目 札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部

※持参の場合：受付時間9：00～17：00（ただし、土日祝は対応不可）

郵送の場合：応募期間内に必着とする。封筒の表面に「研修療法士願書在中」と記入ください。

## 7. 選考方法

面接試験を実施の上、合格者と決定します。

●選考試験実施日：2024年10月29日（火）

※状況等によりWEB面接となる場合もございます。

## 8. 結果通知

2024年11月上旬、順次郵送にて結果を通知します。

## 9. 処遇

●雇用形態：非常勤（日々雇用職員）

●給 与：¥ 9,210/日（業務経験年数6年未満の場合）

¥ 10,980/日（業務経験年数6年以上の場合）

通勤手当有

●勤務時間：月～金曜日 8：45～17：30

●休 暇：年次有給休暇有り（10日）/年末年始有り/その他休暇有り

●公的医療保険：健康保険

●公的年金保険：厚生年金

●労働者災害補償保険法の適用/雇用保険：有り

●理学療法士・作業療法士賠償責任保険：病院において加入しない（個人加入：任意）

## 10. 問い合わせ先

札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士研修センター

メール：pt.ot-center@sapmed.ac.jp

電 話：011-611-2111（代表）（内線：36870） FAX：011-621-8059

その他の詳細につきましては、札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センターHPをご覧ください。

<https://web.sapmed.ac.jp/ptot-tracen/>



## ■札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター

責任者：札幌医科大学附属病院長

運 営：札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター

//

管理評価委員会

指導責任者：各プログラムコーディネーター

担当指導者：リハビリテーション部理学療法士・作業療法士、保健医療学部理学療法学科教員・作業療法学科教員

### ●研修センター・管理評価委員会 構成員

渡辺 敦（附属病院PT・OT管理評価委員長/札幌医科大学附属病院長）

片寄 正樹（附属病院PT・OT研修センター センター長/リハビリテーション部 部長/保健医療学部理学療法第二講座 教授）

太田 久晶（附属病院PT・OT研修センター 副センター長/保健医療学部作業療法学第一講座 教授）

成松 英智（医学部救急医学講座 教授/高度救命救急センター センター長）

橋本 暁佳（医学部病院管理学 教授/循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座）

千葉 弘文（医学部呼吸器アレルギー内科学講座 教授）

渡邊 耕太（保健医療学部理学療法第二講座 教授/医学部整形外科学講座）

中村 真理子（附属病院リハビリテーション部 副部長/保健医療学部作業療法学第一講座 教授）

菅原 和広（附属病院リハビリテーション部 副部長/保健医療学部理学療法第一講座 教授）

青木 昌弘（医学部リハビリテーション医学講座 助教）

河合 誠（附属病院リハビリテーション部 係長）

名 称	北海道公立大学法人 札幌医科大学附属病院
病 院 長	渡辺 敦
所 在 地	北海道札幌市中央区南1条西16丁目291番地
診 療 科 数	<p><b>【30 診療科】</b>            消化器内科／免疫・リウマチ内科／循環器・腎臓・代謝内分泌内科／呼吸器・アレルギー内科            ／腫瘍内科／血液内科／脳神経内科／消化器・総合、乳腺・内分泌外科／心臓血管外科／呼吸器外科／整形外科／脳神経外科／神経再生医療科／婦人科／産科周産期科／小児科／眼科／皮膚科／形成外科／泌尿器科／耳鼻咽喉科／神経精神科／放射線治療科／放射線診断科／麻酔科            ／総合診療科／歯科口腔外科／リハビリテーション科／遺伝子診療科／感染症内科</p> <p><b>【中央部門】</b>            薬剤部／検査部／病理部／放射線部／手術部／医療材料部／リハビリテーション部／高度救命救急センター／集中治療部／医療安全部／感染制御部／臨床工学部／看護部／医療連携福祉センター／栄養管理センター／臨床研修・医師キャリア支援センター／看護キャリア支援センター            ※画像・映像支援部門（大学組織）</p>
病 床 数	922 床（一般病床 890 床 精神病床 32 床）



## 札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士研修センター

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291番地  
 電話：011-611-2111（内線 36870）  
 F A X：011-621-8059  
 メール：pt.ot-center@sapmed.ac.jp